

自由が丘地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 令和元年11月9日
午後7時30分～9時45分
- 2 場 所 自由が丘公民館2階中会議室
- 3 参加者 自由が丘地区 36人
市 20人（市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、企画政策課長、危機管理課長、生活環境課長、環境課長、都市政策課長、交通政策課長）
オブザーバー 3人
傍聴者 1人

4 内 容

- (1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

- ア 自治会活動の理解と加入促進にむけたリーフレットについて・自治会条例制定についての調査研究状況について

【自由が丘地区】

3月中旬には自治会加入促進リーフレットを発行していただけることに感謝する。配布が開始されるまでは、自由が丘自治会において2,000部を印刷し、新しく入居された方や未加入の方に配布する予定である。近年の外国人住民の増加を受け、自治会リーフレットの外国語版を作成してもらえないか。自由が丘地区にも外国人の方が大勢いらっしゃるが、リーフレットを見ていただく機会がない。市で対応をお願いしたい。また、自治会加入促進条例について、他市の状況をさらに知りたい。やはり条例を整備した方が加入促進に向けた姿勢が示せるのではないか。

【市民生活部長】

市で発行するリーフレットは、市民課の窓口や各公民館に設置し、配布する予定である。また、外国人住民向けのリーフレットについては、三木市国際交流協会と市民協働課で作成した「まえむきに」という多言語の情報冊子を各公民館や施設に設置しており、その中に自治会活動のことも記載している。自治会の加入促進に特化した情報冊子の作成については検討させていただく。

【市民協働課長】

「まえむきに」は、ごみ出しのルールを始めとした三木市での生活に必要な情報を5か国語で記載した冊子である。自治会の加入促進を目的とした記載ではないが、自治会の役割や外国人住民にとって必要なルール等を記載しているため、自治会リーフレットとともに活用できたらと思う。現在作成を進めている自治会リーフレットの内容についても、未だ精査が必要なため、外国人住民向けに翻訳したものについては来年度検討したい。

【市民生活部長】

自治会加入促進条例については、川西市では「自治会に加入するなどの地域活動に主体的に参加するよう努めるものとする」という努力規定の条例案が出されたが、市議会においてその文言を削除した修正案で可決された。東京都世田谷区では、2013年、自治会加入を促進する条例を作成したが、地域住民や議員から強い反対があり提案には至らなかった。条例策定により姿勢を示すという点で三木市としても検討する必要はあるが、まずはリーフレット等による周知や自治会役員の負担軽減を図るなどの取り組みを進めていく。

【副市長】

地域住民の暮らしを守っているのは自治会の皆様であると認識しており、自治会の脱会や未加入は重要な課題であると考えている。自治会の役割や具体的な活動内容について知らない市民が多いため、広報みき2月号では特集として紹介させていただいた。それに続くものとして、自治会リー

フレットを作成し、転入が多くなる時期に配布しようとするものである。外国人住民向けに運用している防災ガイドブックが9か国語に対応しているように、多言語対応の自治会リーフレットについても検討を進めていきたい。

【市長】

自治会加入促進条例を作らない方針で進めているわけではない。ただし、最高裁の判例において自治会加入は強制できないとされているため、まずは広報による周知や役員の負担軽減など、できることから進めていく。条例がやはり必要であると区長協議会連合会等で意見が固まった際には再度検討させていただく。

【自由が丘地区】

志染公団には、中国人住民90人のほか、11か国にわたる外国人住民がいる。自治会ではその方々の住まいやいつ入居されたか等が把握できず、また、リーフレットを発行しても配布する機会がない。

【市民協働課長】

外国人住民との共生は重要な課題であり、市としても多文化共生策を強化しなければならないと考えている。市民協働課では来年度以降の多文化共生施策に係る人員体制を強化したいと考えているほか、多くの外国人住民が技能実習生等で就労されているため、市内事業者に対し、多文化共生に向けた研修や指導に取り組む予定である。出入国在留管理庁と意見交換を行ったほか、県や国の機関と連携しながら相談支援体制の強化に努める。ご指摘のとおり志染公団には外国人住民が多いため、ご意見をいただきながら進めていきたい。

【自由が丘地区】

市からの配布物がすべて紙媒体のため大変重い。市内小学校へタブレット端末を配布したように、各自治会にもタブレット端末を配布し、それを通じた情報共有ができないか。電子自治体のような抜本的なシステムを作り、自治会に加入するメリットとして市との協働により進めるのも一

つの方法であると考える。

【市長】

全自治会へのタブレット端末配布については、運用方法や費用の問題等があるため、慎重に検討させていただく。まずは区長協議会や連合会において協議していただきたい。

【自由が丘地区】

転入された方の未加入ではなく、既存の自治会員の脱会が課題であるという実態を把握した上でリーフレットの作成をお願いしたい。

イ 通学路交差点及び歩道のカラー化について

【自由が丘地区】

信号がある交差点はカラー化の対象ではないとのことだが、広野小学校前は信号があり交通量も少ないにも関わらずカラー舗装されている。看板等と比較し、カラー舗装は視覚的に分かりやすくドライバーもスピードを落としやすいと考える。自由が丘東郵便局前は白線のみで歩道とは言えないほか、自由が丘中学校周辺は歩道が途中までしかなく、それを理由にカラー化しないことは少し違うと考える。

【都市整備部長】

カラー舗装化については他地区からも要望が多い。優先順位を定め、まずは信号がなく危険な箇所から順番にカラー舗装を進めていく方針である。ご指摘の箇所については、道路管理者や教育委員会、警察と共に通学路の安全点検を行う中で再確認させていただく。PTA等から具体的な要望があれば学校や教育委員会を通じてご意見いただき検討を進めたのち、必要であればカラー舗装を進めていく。

【自由が丘地区】

現場確認の際には自治会も立ち合わせていただきたい。

【自由が丘地区】

大津市では、信号も歩道もあったにも関わらず保育園児が死傷する凄惨な事故が起きた。今回の意見提言では、通学路に使用している場所で特に地域住民が危険だと認識し

ている箇所を挙げている。信号の有無ではなく、交通量や歩行者数等から危険度を認識していただきたい。

【都市整備部長】

大津市での悲惨な事故を受け、何か別の対策ができないか国が研究を進めていると聞いている。ドライバーへの注意喚起としてカラー舗装化も重要だが、ドライバーに一番見ていただきたいのは信号である。危険な箇所は無数にあり、まずは信号がなく路面での注意喚起が必要である危険箇所から整備を進めていくことはご理解いただきたい。

【自由が丘地区】

人の目の垣根隊を務めているが、子どもたちが通学する時間帯に現場確認を行い、現状を把握してほしい。また、通勤ラッシュ緩和のため、事業者に始業時間の変更を呼びかけるのも一つの手である。まずは三木市役所が先駆けて取り組んではどうか。

【都市整備部長】

現場については教育委員会等とともに十分に確認させていただく。安全確保を目的として通勤の時間帯を変更することについては、三木市内への通勤だけではないほか、各事業所の就業規則で定められた時間に通勤されていることから、非常に困難であると考えます。

【市長】

教育委員会と都市整備部、PTA、人の目の垣根隊等と一緒に現場確認をすることが最善であると考えます。

【自由が丘地区】

歩道があるから安全という認識ではなく、未来ある子どもたちのためを思って事業を進めてほしい。

【都市整備部長】

教育委員会と連携し、市ができる対策を進めていく。看板の設置等、地域とともに協議を重ねながら取り組みたい。

ウ (都) 神戸三木線及び (都) 広野吉田線の進捗状況について

【自由が丘地区】

都市計画道路についての勉強会を県が始めていると聞いた。交通量を減らすために、志染駅前交差点から環境保全センター方面へ抜けていく道路を整備すれば、志染から押部谷を經由し西神中央へ向かう交通量が減るのではないかと考える。

【都市整備部長】

当該道路において、三木市内の整備は完了しており、整備できていない箇所は神戸市域である。去年と今年5月にも神戸市建設局長に直接要望しているが、神戸市の中で優先順位が低く整備は進んでいない。なお、神戸市は押部谷町西盛の交差点の改修を検討されており、これが実現すれば神戸三木線の渋滞緩和に繋がるのではないかと考える。神戸市には引き続き要望していく。

エ 志染駅南側開発計画、北側ロータリーのあるべき姿について

【自由が丘地区】

志染駅周辺まちづくり基本構想はいつ頃完成するのか。

【都市整備部長】

基本構想は今年度末までに示すことができればと思う。地域の方の意見を汲みながら進めていきたい。

【市長】

昨年、三木市と関西国際大学、市内4つの県立高校の学生、生徒の代表が一堂に会し、まちづくりについての意見交換を行った中で、神鉄粟生線の増便を要望する代わりにアンケートを行うことや、募金をするなど財源についての提案もあった。このように、可能か不可能かは別として、行政だけに頼るのではなく、自分たちも動くといった面でも検討いただければ幸いである。交番の設置については、自由が丘地区及び三木南地区の総意が大前提となるため、地域において協議いただきたい。

オ 自治会未加入者の加入促進について

【市民生活部長】

自治会加入を促進する目的の看板であれば、ごみステーションではなく、公民館等の住民が多く集まる場所に設置すればよいと考える。

【自由が丘地区】

自治会未加入者にごみステーションを使わせないという対策をしてはならない旨は去年の市政懇談会で市から回答を受けたが、それ以降、市から何も代替案の提案はなかった。市と自治会が一体となって取り組んでいることを示すために、どちらの看板内容がよく伝わるかよく考えてほしい。条例等で看板に市章を入れることが禁止されているなら従う。自治会未加入者の存在は大きな課題である。ごみステーションでの啓発により何とか加入してもらえないかという提案である。こういった提案はしっかりと市長や副市長に伝わっているのか。

【市民生活部長】

何度も区長とお話させていただき、市長とも協議している。自治会を脱会する人は、新しく入会した人ではなく加入されていた人とのことだが、それは自治会加入にメリットがないと思われて脱会されているのか。

【自由が丘地区】

役務や時間的な拘束等の複合的なものが要因である。

【市民生活部長】

アンケート結果のとおり、役務や時間的な拘束等が要因であれば、自治会脱会理由にごみステーションは関係ない。加入促進のPRとごみステーションの利用は切り離して考えていただきたい。回答させていただいているとおり、加入促進案として、まずは自治会に関する周知や役員の負担軽減策等に取り組む。

【自由が丘地区】

自由が丘地区区長協議会において論議した上での提案をしている。代替案を出していただきたい。

【副市長】

自治会離れは全国的に問題となっているが、明確に有効な対策案はない。地域とともに検討した結果、現在リーフレット作成を進めている。看板の文言については、行政が自治会加入を強制する内容にならないよう、慎重な検討が必要である。自治会から要望いただき、文言等内容に問題がなければ、市が用意し設置するという進め方もある。

【副市長】

自治会の加入促進とごみステーション利用の問題は切り離して考えていただきたい。提案いただいている可動式ごみ収納庫の設置については、市内すべての箇所が可能か不可能か、また、スペースに余裕があるかどうか等、現地を確認した上で検討する。納得できない回答もあるかと思うが、市としても真剣に考えており、何が可能なのか、何をすれば一步でも前に進むのか、地域と一緒に検討を進めていきたい。

【自由が丘地区】

看板に市章を入れるのはいかがか。「加入しましょう」という表記は削除してほしいとのことであれば、「三木市」と「自由が丘市民協議会」の併載はいかがか。

【副市長】

それらも含めて協議させていただきたい。

【自由が丘地区】

カラー舗装された通学路上において、ネットをかけて運用しているごみステーションがある。ごみステーションの境界がなく、ごみが広がり危険であるため、対策を考える必要がある。可動式ごみ収納庫について、一概にすべて不可とするのではなく、通学路等の事情を考慮して検討してほしい。

【市長】

地域の理解が得られ、交通の妨げにならない、設置可能な箇所については、個々の事情も鑑み進めていく。可動式ごみ収納庫の設置を希望される具体的な箇所を挙げていただき、三木市と地域と一緒に立ち会って確認したい。

【自由が丘地区】

通学路ということもあり、未来ある子どもたちのため、ぜひお願いしたい。

カ 災害時の安全対策について

【自由が丘地区】

自主防災組織も含めて色々な組織と連携し、実際に有事の際に動ける組織体制を作っていく必要がある。

【総合政策部長】

自主防災組織という組織自体、本来は色々な団体で構成され、連携して動く組織である。設立当初はそのあたりが理解されていたと思うが、長い年月を経て形式的な部分が多くなってしまったかもしれない。もう一度初心にかえって動ける組織となるように、地域の皆さんと一緒に考えていく必要がある。

【自由が丘地区】

単位自治会ごとに集会所があるため、開錠の担当者を決めておくなど小さな単位での自主防災組織はできていると思う。自由が丘地区は高台に位置するため、水害等より地震を想定した防災組織の運営や活動を行うことが主であると考え。自治会全体が被災した場合を鑑み、組織的に大きな単位で総括するようなマニュアルづくりが必要ではないか。市と地域と一緒に進めていけたらと思う。

【自由が丘地区】

各集会所の鍵を特定の人しか持っていない場合、災害発生時に迅速な対応ができない。自主防災組織が円滑に機能するような仕組みについて、知恵を出し合いながら進めていきたい。